

**今日のトピック 日本株式市場の見通し**

**グローバル製造業PMIと株式市場の連動性が高い**

**ポイント1 円/米ドルとの連動性高まる  
4月に入り下値堅めの展開**

■ 日本株式市場は、2月に米国金利の上昇、3月に米中貿易摩擦に対する懸念などを背景とした、米国株式市場の調整と米ドル安・円高の進行等から調整を余儀なくされました。4月に入ってからは、一進一退の展開ながら、下値を固める値動きとなっています。

**ポイント2 グローバル製造業PMIと連動  
株価はグローバルな景況感到敏感**

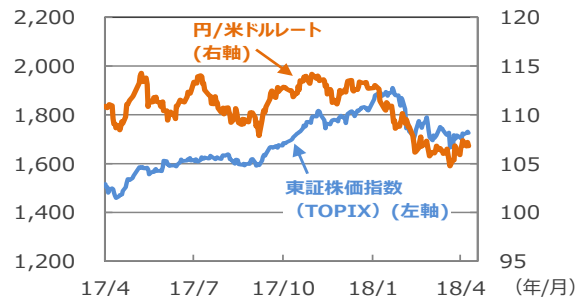
■ 東証株価指数（TOPIX）は、世界の製造業の景況感を示すグローバル製造業PMIと高い連動性があります。2016年5月以降の株式市場の上昇は、世界経済の拡大と企業景況感の大幅上昇に沿ったものでした。しかし、グローバル製造業PMIはピークとなった2017年12月の54.5から3カ月連続で低下しています。2018年2月以降の日本株式市場の調整は、米国金利の上昇や米中貿易摩擦問題と共に、グローバルな景況感の鈍化の影響を受けていると見られます。

**今後の展開 半導体売上モメンタムに注目**

■ 製造業の景況感がピークアウトしたのは、(1) 2015年4月以降の改善が大きく進み、さらなる改善余地が限られていた、(2) 半導体売上モメンタムが鈍化した、などが背景にあると考えられます。

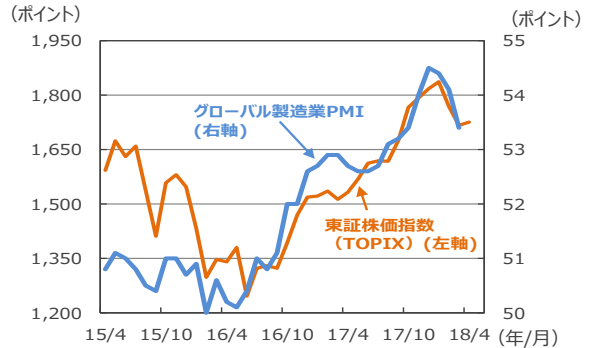
■ 2月の半導体売上モメンタムは米国と新興アジアの売上が鈍化し、マイナスに転換しました。モメンタムは、しばらくはマイナス基調となる可能性はありますが、半導体は高速通信の普及に伴う需要など中長期的な視点から需要の拡大が続く見込みで、徐々に改善に向かうと見られます。半導体売上モメンタムの改善が株価上昇の条件の1つとなりそうです。

【東証株価指数と円/米ドルレート】 (円)



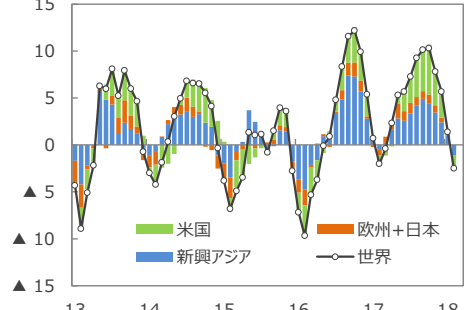
(注) データは2017年4月3日～2018年4月11日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【グローバル製造業PMIと東証株価指数】



(注) データは2015年4月～2018年4月。グローバル製造業PMIは2018年3月まで。東証株価指数の2018年4月は11日現在。  
(出所) Markit, Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【世界の半導体売上モメンタム】



(注) データは2013年1月～2018年2月。3カ月移動平均値の対3カ月前変化率。  
(出所) SIA, Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2018年4月4日 吉川レポート (2018年4月) **トランプノミクスはいよいよ第2ステージへ**  
2018年4月4日 **中国の『PMI』は堅調さを維持**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。